

# 統合失調症者の自己決定要因に関する研究

——グループホーム入居者へのインタビュー調査からの一考察——

辻 陽 子\*

## Self-Determination Factors among Schizophrenia Patients : Interviews with Group Home Residents

Yoko Tsuji

**要旨：**ソーシャルワーク実践において、自己決定を尊重することは原則である。しかしながら、統合失調症者が自己決定することは難しいという前提のもとに、支援を実践されていることが多い。本研究では、統合失調症者の自己決定がどのように行われているかを知ることにある。そのために、自己決定の概念を整理した。次に、グループホームに入居している統合失調症者2名に対するインタビュー調査を実施した。結果、自己決定に影響を与えているものとして、3つ（人との関係性、自身の価値・習慣、疾患との関係）に整理し、考察を試みた。

**Abstract :** One of the primary principles of social work is respect for patients' self-determination. In practice, however, support is often provided with the presupposition that self-determination for people suffering from schizophrenia is difficult. This study seeks to find out how schizophrenia patients achieve self-determination. To that end, the study began by ascertaining the concept of self-determination. Next, interviews were conducted with two schizophrenia patients living in group homes. This revealed three main factors that influenced self-determination (relation to others, self-worth and habits, and relation to the disorder itself), which were then subjected to further observation.

**Key words :** 自己決定 self-determination 統合失調症 schizophrenia patients インタビュー調査 interviews グループホーム group homes

### I はじめに

ソーシャルワーク実践で、クライアントの自己決定を尊重することは原則であり、クライアントの自己決定を最大限に活用・熟成できるような支援が必要である。しかしながら、統合失調症という疾患から現実検討を行う能力が低下している者に対して、果たしてどのくらい自己

決定を尊重した支援を実践できるのかと疑問が残るところである。太田（2009）が、「自我が脆弱であるので、利用者が自己決定するのは難しいという暗黙の前提が、それとは気づかないくらいの深さで精神障害者にかかわる医療専門職の間に浸透している現実がある」と述べているように、精神症状の不安定さや障害の捉えにくさから、利用者の自己決定の意思よりも、

\*関西福祉科学大学 保健医療学部 助教

利用者を保護的に支援しようとすることに比重がおかれがちになっているといえよう。

2004 年、厚生労働省は、今後の精神保健福祉の改革ビジョンとして、わが国の精神保健福祉を精神障害者が地域において自立した生活を営むことができるよう、「入院医療中心から地域生活中心へ」という具体的な方策を推し進めている。また、2005 年には障害者自立支援法（以下、自立支援法）が成立し、「障害者は自ら選択した場所に居住し…（第 2 条）」と規定されているように、自らの住まいの場や、日常生活において必要なサービスを選択し、決定しながら暮らしていけるように法的に記されている。

自立支援法では、住まいの場の一つとしてグループホームが存在する。グループホームでの暮らしは、各人個室があり、日中の過ごし方を自ら選択、決定できる。精神障害者にとって、保護的な入院環境から退院し、自ら選択や決定が可能となる機会が増すが、何をどのように決めていったら良いのかという判断に困ったり、失敗したりすることも多いのではないだろうかと思像できる。以下、自己決定に関する研究について医療・福祉面から概観した後、本研究の目的を提示する。

## II 自己決定についての先行研究

自己決定の概念を整理し、自己決定に関する先行文献についてレビューを行う。

### 1 自己決定の概念整理

Biestek (1957) は、「自己決定の尊重」において次のように述べている。「クライアントの自己決定を促すという原則は、ケースワーカーが、クライアントの自ら選択し決定する自由と権利そしてニーズを、具体的に認識することである。また、ケースワーカーはこの権利を尊重し、そのニーズを認めるために、クライアントが利用することのできる適切な資源を地域社会や彼自身のなかに発見して活用するよう援助す

る責務をもっている。さらにケースワーカーは、クライアントが彼自身の潜在的な自己決定能力を自ら活性化するように刺激し、援助する責務をもっている。(略)」と説明されている。副田 (2006) は、この原則について自分の問題解決を自分の責任で行うことにより人格を成長・発達させるという意味を含んでいると言及している。つまり、「自己決定の尊重」という原則はクライアントの能力は成長・発達する可能性があり、その可能性を信じ、クライアントが活用できる資源を整えていくことでもあるといえよう。

狭間 (2000) は、「自己決定を積み重ねることが、さらなる自己決定を促し、エンパワーメントに導く」とし、「援助者は利用者のエンパワーメントを目指して、自らの援助観（人間観）を覚知するとともに、利用者の生活文脈の中で、利用者の意思を読み取り、確認しながら支援することを求められる」とし、自己決定を支え合うということの重要性を述べている。

石川 (2009) は、福祉サービスを利用時の利用者の支援について、「特に自己主張が抑圧される経験が多かった人々にとっては、『好みを表出して良い（許される）』という経験、その権利があると知り積み重ねていくための援助も必要である。』」とし、表出能力に対する援助として「クライアントが発言できるように援助すること」の重要性を述べている。

上述のように社会福祉における自己決定について、多様な視点からの研究がなされているが、社会環境や利用者の生活状況は日々変化しており、そこに存在するニーズも決して固定的なものではないといえるであろう。自己決定の原則や原理が唱えられていながらも、一人ひとりの価値観は多様であり、様々な関係性の中で成長・発展していくものであるからこそ、利用者と支援者が協働しながら進めていく過程が重要になってくるといえよう。

Butrym (1993) は、自己決定について、「はっきりとした形で定義づけすることは、実際、

不可能な課題である」と述べている。その理由として、自己決定を消極的自由と積極的自由の概念が、人間の価値の枠組みにおける自己決定の位置と、直接的なつながりをもっており、これら二つの形態の自由に対する論争は、哲学者でも未解決であるということから説明している。

このように、自己決定の定義ははっきりしておらず、尚且つ自己決定の捉え方も多様である。この多様な解釈が可能なことに対して支援を実践するためには、対象者が自分の生活を自分で決めていると思えることが重要になってくるのではないだろうか。換言すれば、生活の主体はあくまで当事者であり、当事者がエンパワーしていくためには、当事者が自己決定して生活しているのだと感知することが重要となってくるのではないだろうか。

当事者の自己決定に関する研究では、笠原(2006)が Wehmeyer (1998) の考えを以下のように紹介している。「自己決定は『全て自分ですることである』『自分でやりとげることである』等の誤解を招きやすい」という指摘である。自己決定は自分で決めることではあるが、自分を取り巻く環境と同時に関係している人との間でおこるものといえよう。

## 2 自己決定に関する先行研究の概要

S. J. G. Hobson (2001) は Venesky (1994) の考えを以下のように紹介している。「Venesky は、適切な意思決定を行うために必要な能力を以下に示している。

- ・ 決定すべきことがあることを認識して、それを行いたいと思っていて、その決定についてコミュニケーションができること
- ・ 意思決定のために必要な情報を理解することができること、その情報には各選択肢についての賛否、因果関係、選択の結果起こり得ること、単に抽象的なものではなく個人的な事柄についての事実が含まれる
- ・ 意思決定は一貫しており、個人的価値観と一致していること」と、3点を示した。

自己決定には以上のような能力を必要とされているが、実際には精神障害者の多くはそれらの能力を発揮しきれていないのではないだろうか。では精神障害者の自己決定をどう解釈すればよいのだろうか。以下、精神障害者の自己決定に関する文献を整理し、さらに自己決定と関連のあるエンパワメントについて考察する。

### (1) 精神障害者の自己決定に関する先行研究の整理

統合失調症の入院患者に対する研究においては、津田(1998)は「患者の決定不能は患者が実際の行動の第一歩を踏み出そうとしたときまさにそのときに、それを実行すべきか否かで決められなくなるという、あるいは、いくつかの選択肢の中からひとつ選んで前進しようとしたときに、その選択でよいか悪いかが決められないという時間性が特徴である」と述べている。これは日常的には選択できることが、日常的ではない時などには決定できないということである。また日常生活の些細な選択で決定できずにいる者に対し、その決定する時に、期待することが実現するのかどうかの判断時に支援の受け入れ方を導きと捉えるか否かで決定不能に陥るということである。すなわち、どの衣類を着るかを迷いなく行えるが、ある状況においては決定できずに、また支援があっても決めかねるということであるといえよう。

大熊(2008)は退院後の生活場所に関する研究で、「意志決定を阻害する因子として、精神症状、社会制度による制限、家族が納得できない、他患からの指摘が、また意志決定を促進する因子として、退院に関する希望、看護師の介入、慣れ親しんだ生活環境、他患からの情報、家族からの支援が考えられている」と述べている。これらのことから、決定することやそのことの確信に何らかの支障をきたしながらも、統合失調症の患者は環境や支援などによって決定できる力を発揮できると考えられる。

一方、退院後の患者に対して、山崎ら(2005)は情報収集と確信度という観点から研

究を行っている。この研究では、情報収集と収集した情報を参照し、信念の確信度を変えながら、日常の意思を決定していることから、慢性期の統合失調症患者における早急な結論判断に対して、次の結論を導き出している。①決断するまでの情報量が少ない、②急性期の患者のように、すぐに強い確信を持たなかった、③情報を収集した後でも、(信念の) 確信度が上がらなかったなどと述べている。この文献では、決定に至る過程が早急な事に対し、情報量との関連という視点から論じている。決定時の妄想等の影響から、情報を収集することが少なかつたり、収集しても何が現実実現可能な期待できるものなのかの確信に繋がらない。もしくはこれでいいのだという確信に繋がりにくいといえよう。

斎藤 (2007) は、服薬管理における自己決定のプロセスを支援するという視点から述べている。その中で、患者の主体的な服薬継続のためには、「一つはインフォームド・コンセントを行っていくこと、2つ目は患者－医師間の信頼関係ができ、薬に関して話し合いができるように、患者自らが行動を起こせるようなエンパワメントを図っていくことである」と述べている。

ソーシャルワーカーの支援について、稲垣 (2009) らは、当事者の自己決定を尊重した支援を実践するために、失敗を保障した支援を行っているのか否かについてインタビュー調査を行った。その結果、失敗を保証する援助として、《当事者に寄り添う援助》が示された。

### 3 自己決定とエンパワメント

人は日々の生活の中で自己決定を行いながら、自らの人生を構築していく。障害をもつことによって、判断できなかつたり、判断に苦慮することがあるとしても、機能面による制約に大きな変化はなくても、活動や参加制限は変化していく。その理由は環境の変化だけでは説明が付きにくい。前述のように自己決定するには

能力が必要であり、その能力を発揮するためには「これでよかったんだ、これならできるかもしれない」といった自己肯定できる経験を積み重ねて行く必要があるといえよう。次に、自己決定する能力以外に、自分で決めたいと思える意欲と関連があるであろうエンパワメントについて整理する。

久保 (1995) は、エンパワメントについて、①力、権威を合法的に与える行為と何かを可能にする、あるいは許可する行為、②その結果として力を得た状態、可能になった状態を指す2つの意味があると述べている。つまり、人が自身を取り巻く状況の中で、行為者として力を得る過程であり、力を得た状態を示しているといえよう。

中村 (1995) は、エンパワメントの特徴を「エンパワメントは、社会構造的状況や社会的政策的状況の調整と個人的問題の心理的調整という両者を同時に行うプロセスを意味している」と述べている。これは、エンパワメントを個人が社会状況の中で、いかに力が引き出されていくかということと、その過程の中で力をつけていくかということだといえよう。谷口 (2008) は、自らが幼い時から障害をもっている体験から、「自分で選んだり決定することに自信をなくしている」「なかなか達成感を持ってない」などと述べている。しかし、「ディマンド (欲求) を整理することによって…自己決定する力が湧いてくる」とも述べている。

以上から、自己決定には能力が必要とされるが、その能力が発揮されるには、当事者がエンパワメントしていく支援が必要となってくるのだといえよう。さらに、エンパワメントは支援者とパワーを共有しながらなされていく。また、その作業を繰り返す必要があるといえよう。

### 4 目的

これらの先行研究より、当事者が自己決定を繰り返す行うことが、エンパワーしていくこと

であると考えられるが、その要因は見えにくい。自己決定に基づいた支援を実践するためには、その要因を知ることが必要であると考えられる。本研究の目的は、当事者の語りから自己決定に関連する要因を抽出することである。

### Ⅲ 調査方法

#### 1 データ収集方法

グループホーム（以下、GH）に入居中で、過去に入院経験のある統合失調症者（以下、当事者）に研究の協力を依頼した。依頼の手続きは、当 GH を管轄する地域活動支援センターに所属するサービス管理責任者兼ソーシャルワーカーの方（以下、担当者）と相談の上、6名の利用者にインタビュー調査の依頼を行った。担当者を通して、「現在の生活のこと、自分で工夫したり、決めて行っていること」などを聞かせていただきたいと申し出た結果、2名の方から了承を得られた。4名の方は、「入院時のことを聞かれるのが嫌」「話すことが苦手」「なんか面倒くさい」などの理由により、協力を得られなかった。

調査期間は2011年6～7月に行った。事前に、担当者より、入院に至る経緯や、症状からくる生活障害についてあらかじめ情報収集を行った。インタビュー調査の前に、当事者にアンケート調査を実施した。アンケートの項目は、興那嶺（2009）らによる、簡易版自己決定尺度<sup>1)</sup>を基に作成した（表1）。作成にあたり、現在の GH での生活状況と照らし合わせ、担当者と共に相談し、決定した。アンケートは、担当者を通して、必要に応じて項目の説明を加えながら行った。そのアンケート内容を参考にしながら、個別に半構造化面接を実施した。インタビューは当事者の都合の良い時間を事前に確認し、静かでプライバシー保護が可能な地域活動センター内の個室で、筆者と向かい合わせに当事者、その隣に担当者が座して行った。面接回数は2回行い、各50分～70分とした。1回目はアンケート内容に沿って現在の GH での

生活を聞くことを目的に行い、2回目は1回目のインタビューの内容から、自己決定に関することを下記のインタビューフローを用い実施した。尚、インタビュー中は自由に話ができるように努め、必要に応じて追加インタビューを行った。インタビューは当事者の了解を得て、すべて IC レコーダーに録音し、逐語記録として文書化した。

#### 《インタビューフロー》

- ①今までの生活の中で、自分の生活を自分で決めたと思えるエピソードはありますか
- ②自己決定する生活ってどういう意味をどう考えますか
- ③自分で決めた後、間違ったかなとか、あの時別の方を選んだ方がよかったかなと思ったことはありますか
- ④自分で決める時、どんな手助けをしてもらったらいいいと思いますか

#### 2 研究対象者

研究対象者は、精神科病院に通院し、デイケアや地域活動支援センターを利用している2名である。

##### 2-1 研究対象者 A（以下 A 氏）

男性 40歳代 統合失調症  
発病は大学在学中に大学中退  
入院回数は6回  
収入は生活保護費など 職歴なし  
日中はDCは4日/週  
訪問看護は1回/週  
主治医より電車に乗ることを制限されている。  
部屋は大散乱状態  
訪問看護：通帳の確認を行っている  
対人関係：人のことを嫌がり GH ではひとりであることが多い。  
大事なもの：パソコン、ゲーム、カメラ  
父親との関係：現在、施設に入所している  
父親は、月に1回の頻度でグループホームに面会に来る。「部屋の掃除などきちんと

表 1 統合失調症者に対する簡易版自己決定尺度

|  |  |
|--|--|
| <p>アンケート</p> <p>以下の問いに関して、支援者が決めるか自分が決めているかを答えて下さい。</p> <p>1 点 「支援者が決める」<br/>2 点 「どちらかといえば支援者が決める」<br/>3 点 「どちらともいえない」<br/>4 点 「どちらかといえば本人が決める」<br/>5 点 「本人が決める」</p> <p>日常生活</p> <p>1. 自分の私物を管理するためのロッカー、自室等の鍵を持っていますか、持ちたいですか。<br/>2. 自分の部屋をどのようにするか自分で決めていますか。（例 どのように裝飾するか、部屋の掃除をどうするか）<br/>3. どんなときにスタッフが自分の部屋に入室するか<br/>4. 歯を磨くか、いつ入浴するかを自分で決めていますか。<br/>5. どの服を着るか決めていますか。<br/>6. 夕食は何を食べるか、食事時間以外に食べ物をとるか自分で決めていますか。<br/>7. 寝る時間や起きの時間など自分で決めていますか</p> <p>健康管理</p> <p>8. 熱っぽい時に市販薬（例 風邪薬、鼻炎薬）を買うなどの対応を行っていますか。<br/>9. 病気やけがの際に医者に行く必要があるかどうか自分で決めていますか。<br/>10. 誰かと一緒にいくなどの対応をとりますか。<br/>11. どこが悪いかを誰が医者に説明しますか。<br/>12. 診察時になされる薬の投与や処遇といった簡単な医療行為を了承しますか。</p> | <p>金銭管理</p> <p>13. 自分でお金を管理していますか。<br/>14. お小遣い程度の小額な商品に関して、自分で決めますか。<br/>15. 比較的高価な商品（例 テレビ、ビデオデッキ、自転車）に関して、買うかどうかを自分で決めますか。</p> <p>仕事・日中活動</p> <p>16. どんな仕事や日中活動に取り組むか自分で決めますか。<br/>17. 病気のために仕事や日中活動を休むかどうか自分で決めますか。<br/>18. 病気ではなく仕事や日中活動を休むかどうか自分で決めますか。<br/>19. （一時的ではなく）特定の仕事や日中活動を辞めるかどうか自分で決めますか。</p> <p>友人・知人関係</p> <p>20. 誰と友人・知人になるか自分で決めますか。<br/>21. いつ友人・知人に会うか自分で決めますか。<br/>22. 友人・知人と何をするか自分で決めますか<br/>23. スタッフの付き添いなしで友人・知人と一緒に外出しますか。<br/>24. 友人・知人と外出した際に、いつ帰宅するかを決めますか。<br/>25. 友人・知人の自宅や住居に一晚泊まるかどうかを自分で決めますか。</p> <p>異性との関係</p> <p>26. ガールフレンドやボーイフレンドを持っていますか。<br/>27. デートのため外出はしますか。<br/>28. ボーイフレンドやガールフレンドと二人きりで時間を過ごしますか。</p> |
|--|--|

平成 23 年      月      日

アンケート回答者 \_\_\_\_\_

記録者 \_\_\_\_\_

出典：興那嶺司ら：「生活施設における知的障害のある人の自己決定の構造－担当支援職員による質問紙に対する回答を基に－」．社会福祉学：2009、27-39、45(2) を一部改定

生活しないと、グループホームを出される。そうなるとホームレスになる」と、A 氏に伝え、同内容を文章にして、手渡している。

## 2-2 研究対象者 B（以下 B 氏）

女性 50 歳代 統合失調症  
発病は 40 歳代（夫と小学生の娘がいた）  
現在は離婚 入院回数は 6 回  
収入は生活保護費、結婚前は製造関係の仕事  
結婚後は梱包作業などのパート  
訪問看護：1 回/週、服薬の確認を行っている  
以前は DC や作業所に通っていたが、人間関係の問題により辞めた。  
現在、日中は何も行っていない（求職活動中）時々カラオケに行く

対人関係：被害妄想がある ヒステリック  
になりトラブルになる  
「悪い奴がくる」と玄関に包丁をぶらさげ、部屋にビー玉をしきつめていた。

## 3 倫理的配慮

研究の趣旨を施設長に説明し、施設管理者から利用者が承諾すればよいとの了解を得る。当事者には、研究の目的、方法、倫理的配慮について口頭および紙面により説明し、得られたデータは研究以外には使用しないこと、途中で中断したい場合はいつでも中断できることを説明した。その内容について同意を得て、同意書に署名を頂く。同意書及び録音したデータは鍵のかかった引き出しに保管した。尚、録音したデータは全て CD-ROM に保存し、管理者が鍵の管理を行った。

#### 4 データ分析方法

分析に用いるデータは半構造化面接によって、得られたものである。データをもとに萱間（2008）の内容分析の手法を用いて分析した。データ記録の内容を自己決定していると考えられる言葉とその背景や要因、場面毎に切片化した。自己決定していると考えられる言葉にマーカーをひき、自己決定に関する背景や要因、場

面となる言葉に点線をひき、不要と判断した記述を削除した。意味内容が類似したデータを一次カテゴリとし、各々にその概念を表す名前を付けた。同様の手順で順に、2次カテゴリ、3次カテゴリを作成した（表2）。分析過程では、幾度もデータに戻りカテゴリを取束していった。なお、本研究は関西福祉科学大学研究倫理委員会の承認（承認番号 12-26）を得ている。

表2 自己決定に関連する内容

| 3次カテゴリ | 2次カテゴリ  | 1次カテゴリ   | 切片化したデータ（抜粋）   |
|--------|---------|----------|--|
| 人との関係性 | 支援者との関係 | 主治医との関係  | <div>A氏</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人ごみなんか行かないで下さいと言われてるから</li> <li>・（電車の制限を守ること）ばれたら、怖い</li> <li>・（電車の制限を破ろうと思ったことは）ないです</li> <li>・（電車の制限について）不満、飽きてくる</li> <li>・（制限を破らない理由）僕が一言も喋ってなくて、喋ろうと思ったのに、「また入ってもらいます」の一言で、再入院になったことが2回あって。ちょっとそのやり方はひどいと。</li> <li>・明らかに先生の勘違いだと思うんですよ。なぜかと言うと僕の様子がいつもと違うので、それで入ってもらいますって言うから、いい加減嫌になったんですけど。</li> <li>・僕よりは頭のいい先生にきつく言われてるんで</li> </ul> <div>B氏</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私がちゃんとやってたら、先生もちゃんとやってくれるから</li> <li>・なんかお願いしたい時はやってくれるし、来週の時先生は切り替え早いら、1回怒ってもちゃんとこうやって謝って、お願いして、わかってもおて</li> <li>・怖くないねん、好きな先生やから余計に（病気について）聞かれへん</li> <li>・看護婦さんと仲良くいなくて言われてるから</li> <li>・（カラオケ）入院してる時、先生に「歌えへん」って言われて、誰もいてなかったから、今やったら歌えるって思ってる。</li> </ul>  |
|        |         | 看護師等との関係 | <div>〈退院時、SW との関係〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（GH 入居に関して）部屋が空いたんで…（と勧められた）</li> <li>・（勧められて）嬉しかった</li> <li>・（GH 入居前に）見に行かなかった</li> </ul> <div>〈現在、訪問看護にて〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（通帳の確認）しつこいしくどいと思う</li> <li>・（金銭管理）なんにも指導されない方がいい</li> <li>・（金銭管理 1 週間に 1 回を）1 ヶ月に 1 回でいい</li> <li>・いろいろ言われるのが迷惑</li> </ul> <div>〈入院時〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師さん泣かせてるもん、何回も喧嘩になる</li> <li>・看護婦が悪いから、調子悪いから薬下さいって言うてるのに、ちょっと待ってって順番やからって、腹たつから</li> </ul> <div>〈現在、訪問看護〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 週間に 2 回来てくれる、薬みて、これ飲んでないねって</li> </ul> <div>〈作業所のスタッフ〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの人との関係はそうでもなかった。</li> <li>・でも、上に立ってた人がバツと余計なことを言って、傷ついたことはあったから、上の人とはでけへんなって。</li> <li>・上立ってる人は、全体のこと見てはるから…その人が間違った報告されたら嫌なやつと思う。…実習でって、勉強でって、それはそれでええけど、仕事中は話してほしくないねん。気が散るから、その人らは喋りながら、いろんなことしてて、私ら仕事はもう絶対、喋ったらあかんって教わってきたから…喋りながら、数えてたらもうわかれへん、またやり直して、二重手間になってくるねん。</li> </ul> <div>〈福祉の人〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売り言葉に買い言葉でしよって言ったこともある</li> <li>・DC に訪問に来て、こっちは呼んでないのに</li> <li>・特に男の人、難しい、わかれへん、旦那で精一杯やったもん</li> <li>・いかにも、なにに福祉って書いてあって、これ近所やったらすごいよって、だってすぐわかるもん</li> <li>・（角部屋）端に選んどきって言われた。</li> </ul> |
|        | 家族との関係  | 近親者との関係  | <div>〈父親との関係〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物の場所を変えてる、父親のはゴミ屋敷って言われてる</li> <li>・お父さんに邪魔ばかりされてるんです</li> <li>・（月末にお金足りない）電話したら、ガミガミ言われて一方的に言われて</li> </ul> <div>〈娘との関係〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの誕生日に時計買って贈ってあげなあかんって、おせっかいやったんかなって、あとで後悔した</li> <li>・働いてるときに、会えたらって思う、私が反対に子どもやったら、ゴロゴロしてるお母さんより、一生懸命働いてるお母さんが見たいって思うから</li> <li>・先生は、自分（子ども）が母親になったらわかるって、だから待ってきいて</li> </ul> <div>〈前夫〉</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親権っていうのがあったから、私はもうどうすることもでけへんかって、裁判かけても離すべきではなかった。争ったらよかったと思う。</li> <li>・親権なんて、むこうの稼ぎがあるだけで、どっち選ぼうが子どもは子どもやんか、しばらく施設に預けて、（私が）治るまで。</li> <li>・ほんで、電話しても、笑とるわあ、嬉しいから、ハンコついて分かれてるから。</li> <li>・ケラケラ笑ってるから、腹たつて、喧嘩なって、かけてくるなって言われて、もうええわって思ってる</li> </ul>  |

|          |           |  |  |
|----------|-----------|--|--|
| 人との関係性   | その他の対人関係  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっぱり人間つきあいは嫌いなんです</li> <li>・喋るのは苦手</li> <li>・普段無口だけど、喋りたい時はどうしても喋りたい</li> </ul> <p>〈仕事に就くために知り合いに相談〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知り合いに話してみただけど、A さんみたいな人のことまで考えてみませんですからって言われてしまって</li> <li>・友達が、阪急宝塚線に働いているんで、中途採用の方もいますって言われて</li> </ul> <p>〈切符売り場で知らないおはさんと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道案内したり、電車の話しになると、切符の買い方になると、それ自体がわかってないおばさんが多くて、僕、しょっちゅう教えたりするんです。押しただけですよって。</li> </ul> <p>〈電車の中で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの時、声かけたらよかったかなって思いつながら、なんというか、M 駅まではいいんですけど、N 駅にいくと全員無視してしまう。声かけられたら違いましかと。</li> </ul> <p>〈街中で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（知らんおじさんに）おもしろい人やなって言われるんです</li> </ul> <p>〈GH の生活で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の部屋のぞいただけでねえ、怒られた</li> <li>・ご飯の時に（人の部屋）開けたらだめで、逆に、僕の部屋は入れられ放題でねえ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・嫌やっておもったら、もう嫌やってなってしまうねん</li> <li>・喧嘩になって、許せばいいけど、私の心の中で、許されへんっていう思いがあって、もう切りましようってなっちゃうねん</li> <li>・（人）いい、悪いの判別したらあかんけどね、でもしてしまう</li> <li>・この人についていっても最後裏切るでしょうって</li> <li>・もう自分で切るわって決めてしまうねん</li> <li>・人間関係、嫌やねん</li> </ul> <p>〈デイクアでの関係〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・だんだん人間関係が入れ替わって、みんな年とってくるし、ここが痛いだの、亡くなってくる人もいてるし、そしたら、みんなもう一緒のこと言うてくるでしょう。</li> </ul> <p>〈作業所での人間関係〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事より人間関係で、ゴチャゴチャして、早い遅いっていうのは誰だってあるから…端からみたらもうそんな風には見えへんから。</li> <li>・女の人でも分けてるから、この人は怖い人とか、怖くない人とか</li> <li>・心の中で、決まったら、どうしてもあかん</li> <li>・人間関係が下手やねん、嫌になったらすぐに逃げちゃう</li> <li>・新しく、一からやり直して、なんにもわからんとこからやった方が気が楽、だから、一旦終らせませす</li> </ul> <p>〈GH の世話人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イザコザがあって、心の中で納得いけへん</li> <li>・もうその子はその子の世界に入ってるから、別に何もしてないねんから、ほっとけばいいやん</li> <li>・ご飯食べる前にそんなこと言ったらご飯美味しくないやん</li> <li>・（世話人との関係）しゃーないし</li> <li>・言われへんように早め早めにならざる</li> <li>・（世話人とカラオケ）おごつてもおとつていうのはわかんねん、でも、私にしたら大きなお世話になつて、私は一人で行きたい</li> <li>・（隣近所のおつきあいは）ないない。顔もしれへん。</li> <li>・（来客）たまたま、出てしまつて、普通出えへんねんけど、居留守使つて、誰かがピンポンしても、それが、たまたま、なんでか出てしまつて。男の人で、頭から怖いって、すぐ、帰って欲しいと思つたけど、1 万円の水出すやつで、まあおかしいけど、お金払つて、後からやっぱりおかしいって自分でもわかつて。領収書もらおうと思つたけど、口から出えへんかつてえ。警察行つて、お金返して欲しいから。後の生活が困るやん。刑事課行つたら、怖い人がおつて、なんでこんな怖い思いせなあかんのつて思つて、でもその人は優しいやつ。</li> <li>・（人間関係）病氣してから、もう下にくだつていくばかりで、自分であらうとしても、また下がつていくねん。</li> </ul> |
|          |           | <p>〈DC〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休んだりしない</li> <li>・（休まない理由）苦手やから、電話するの緊張するから</li> <li>・（週 4 日は）数が多いと思う、何もすることがないんです</li> <li>・（行つてること）パソコンでゲーム</li> <li>・（パソコン選択理由）することなく、しょうがなく</li> <li>・（週 4 日を）3 日くらいならいい</li> </ul> <p>〈GH〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（GH の自室で）テレビみてる、ニュースとか</li> <li>・（GH の食事がいい時）外食かコンビニで購入</li> <li>・朝、絶対ご飯なんです。（さとうのご飯が）ないと生きていけない。食べ損ねたら死んでしまう。</li> <li>・午前中はしんどい、10 時半頃ものすごくしんどい</li> <li>・今は 12 時ころ寝てる、やっぱり 2 時ころ寝るのがいい</li> <li>・（掃除）布団の上に物を置いてるのは、エアコンのスイッチと髭剃り</li> <li>・衛生面からいうと、毎日、ゴミ捨ててる</li> <li>・ご飯パックは最低 3 個は余らせるようにしている</li> <li>・毎日ね、掃除している、レールを 1 日 1 回走らせる掃除じゃないかあ、物の場所を変えてる、割と、それこそ父には、ゴミ屋敷やって言われてるけど。</li> <li>・掃除ばかりしてると、体力的にしんどくなつてくるんです</li> <li>・（休日）出かけたりします、食べ物屋さんいっぱいある所へ。</li> <li>・一人暮らしになってから 1 回も風邪ひかなくなりました</li> </ul>                            | <p>〈GH〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（角部屋について）恵まれたかなあ。</li> <li>・（GH の食事がいい時）自分でつくる。ほとんどインスタントばかりだけど、鍋買ったから、冬やったら、湯豆腐したり。</li> <li>・（日中の過ごし方）ほとんどテレビ、かけばなし、淋しいからしんどくなるから 6 時半には起きてる。歯磨いてもう 1 回寝る。</li> <li>・9 時頃には洗濯まわす（毎日）。</li> <li>・怖いから、ピンポンなの、訪問（看護）の人にも、ピンポン鳴らさんといつて言つて、ドアをトントンとして呼んでつて。</li> <li>・自分のことは自分でしてる。</li> <li>・夜に、整形外科に行ったりしてる。腰とか足とかの。</li> </ul> <p>・自分のことが思うようにいかないときに、なんかイライラつて…やっぱり自分で決めていかなあかんっていう思いもあるし、間違つてもいいと思うねん。生き方に対してね。突飛なことやらかしたから、ない命が今あるから、考え方も変えていかなあかんし。</p>   |
| 自身の価値・習慣 | 生活上における決定 |  |  |
|          | 管理        | <p>〈金銭〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・割とケチなんです</li> <li>・通帳が命の次に大事だと思つて</li> <li>・自分で決めます、そうしないと余るんです、逆に</li> <li>・通帳を隠すためにわざわざ本を重ねている</li> </ul>  | <p>〈服薬〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護が来てくれる。</li> <li>・飲むのを忘れたら、いま飲んだら、朝こたえるからもう飲まんとこつて、リズムが反対になったらしんどいねん</li> </ul>  |
| 自身の価値・習慣 | 趣味        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・（PC 用）本は絶対いるしね</li> <li>・（電車の模型）おもしろい</li> <li>・（電車の模型とレゴのおもちゃ）押入れになおしている</li> <li>・（電車の何がいいのか）スピード、客室が電車は広い、天井は高いし、車は低いけど</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に 1 回カラオケに行く、一人で、3 時間</li> <li>・ぶっ通しで歌う時も途中でやめる時もある</li> <li>・（カラオケ）楽しい、ここ（病院）で覚えた。私の趣味はこれだけ。</li> </ul>  |



|          |           |   |  |
|----------|-----------|---|--|
| 自身の価値・習慣 | 生活上における決定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんかこう働けることないかなって</li> <li>・(職に就くに当たってスタッフにしてほしいこと) ありがた迷惑です</li> <li>・阪急詳しいんで、阪急電車に入れたらと思う</li> <li>・割と時刻表嫌いなんです、難しいから、体力的にもやっぱり5日が限度やし</li> <li>・(主治医やDCスタッフに言っているのか) 言っていない</li> <li>・駅名と車両の車種と、ダイヤと全部わかってるから、働くとしたら体力だけだと思う</li> <li>・最初、駅員で、それから車掌、それから運転手になる運転手になってみたいんです</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手にやって、勝手に辞めて、自分でハローワークに行ってみつける、勝手に終るねん</li> <li>・定年まで後8年しかありません</li> <li>・なんぼでもバイトあるから、でも年とってきたから、体力っていうのをむこうの人は考えるから</li> <li>・どっかで必ずひっかかってくるから、でも立ちあがってくるのが遅いねん(ハローワーク)</li> <li>・(仕事の探し方を) 1回だけ教えてもらって、そんなに難しくなかったから</li> <li>・(ハローワークの職員) 絶対忙しい、しんどいから、これは勧められせんってはっきり言われた</li> <li>・むこうも見えてはるから。こっちの様子を、パッとみて、この仕事やめときって、結構みてはるから</li> <li>・むこうの人の意見聞いて、もうしんどいからやめときって言ったから、もう続けへんのわかってたから、体力もいるでって。</li> <li>・内職見つけた</li> <li>・(内職)</li> <li>・見つけて、やって、腰痛めてやめてん</li> <li>・作業所でやってる仕事をそれをすべて自分一人でやらなあかんということ。</li> </ul> |
|          | 発病        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・たまたま、逆向いて寝てんで、朝5時頃目が覚めたりしてたんですけど、たまたま玄関こっちやってねえ、で、お布団の上でこっち向いて、お父さんが「また寝てる、寝てる」ってこっち向きに変えてねえ、それが原因で入院になった。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の場合は自分で病気になったのじゃなくて、周りのあれがあるから、日赤から始まるってから、日赤の人たちが追いかけてきたから。</li> <li>・515 かなんか流行って、おかしいなって、日赤にいったら、周りのタクシーとか、すっごく並んで、グチャグチャになって、人生が狂ったよ。すっごいよ、嫌ほど人が来たよ、車とすべて、子供の体操服買いに行かなあかんから、そこまで行くのに、すっごい車がそこからそこまでの間に</li> </ul>   |
| 疾患との関係   | 病識        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・頭じゃなくて体が割りと悪いんです</li> <li>・ときどき、心臓が痛くなるので水に氷をいれて、冷たい水を飲んでる</li> <li>・20歳の時、サッと回った時に、血液がなんか牛乳の匂いがして、それがね、なんか、ものすごい牛乳の匂いした。明らかに、体の中が、まあ頭は違いますけど、足から首までが、サッと入れ替わったんです、ものすごい牛乳の匂いがするからねえ、それこそ、女性化乳房と違うかな。それ以来、わりときれい好きで、お風呂も毎日入ってる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人になってこう落ちていったり、何回も死にかけとって、もういいわって、やっちゃったこともある。もうお父さんの所へ行って、お墓の前で、まさかそこに人がおるとは思わなかった、でも人が通って。もう疲れたってなって。</li> <li>・(病名について) 今はよう聞けへん</li> </ul>  |
|          | 症状        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気、電流がね、流れてるので、人同士で、磁石じゃないけど、電氣的に繋がってるから、で、それが原因で幻聴が聞こえるんじゃないかなって。</li> <li>・それでね、幻聴もほめてくれるんだったらいいけどね、悪口ばかり言われるんだったら嫌だから、もう人ごみは避けてくださいと。(主治医より)</li> </ul>  |  |

## IV 結果

インタビューから生成したデータから自己決定に影響を与えているものとして、「人との関係性」「自身の価値<sup>2)</sup>」・習慣<sup>3)</sup>」「疾患との関係」の3つが抽出された。尚、当事者の言葉は「」、当事者以外の言葉は『』で示した。

### 1 自己決定の捉え方

自己決定とはどういうことだと思いかと尋ねると、両名共、自分の言葉で表現しようとし、またしていた。

引用1 A氏「自分で自分のその～人生を全部、もう決めていくこと」

引用2 B氏「決めて、決めること」

何か決めてやっていること、やっていきたいことはありますかと具体的に尋ねるとA氏は

希望していることを述べ、B氏は現在、行っていることを述べた。A氏は、希望を述べた後、好きな電車の話に移っていったが、B氏は職探しを一人で行っている理由や自己決定には自己責任が伴うことを説明していた。

引用3 A氏「それを言うとな、まず阪急電車に入りたい」

引用4 B氏「今やってることは、仕事を探しているってこと、ハローワークで、自分で仕事探して、一つ面接までいったけど、断られて、次のとこ、探して、今度も家の近くで、…なんしか自分でできる範囲は、自分で決めていこうって、人が入ったら、やっぱりその人の顔があるから、責任あるでしょう…一人でやったら全部自分の責任っていうことになるから、だから、自分で決めていくってことになる」

## 2 自己決定に関連している要因

### 2-1 A 氏について

#### ① 人との関係性から自己決定している

##### ①-1 支援者との関係

ここでいう支援者とは、当事者を支援している医師、看護師等の医療従事者、ソーシャルワーカーやグループホームの世話人等の福祉関係者を称している。

主治医との治療上もしくは生活上の約束事を重要視していることがわかる。主治医より言われていることは『人ごみなんか行かないください』と、電車の乗車駅数の制限が3駅とされ、さらに人が多くいる場を避けるように指示されている。この制限に対して納得はしていないが、制限を守っている。その理由は約4年前に定期的な診察時に、A氏自身は入院の必要性を感じてはおらず、入院の意思がないにも関わらず主治医の一方的な判断で再入院することに至ったと思っているからである。その制限を守らず再入院するに至った経緯から、再入院に対する怖さがあると表現していた。

引用5「誤解（制限を守っているにも関わらず守っていないという）で、『様子がおかしいから入院してもらいます』って、ひどいんです」

引用6「（制限を守る理由は）ばれたら怖い」

一方、主治医の制限に対する指示に対し、納得はしていないが、判断を守る必要があることから、主治医の能力を正当化し、A氏自身が納得できる理由付けをしているといえよう。これは主治医に対する信頼からおこっている発言だと捉えることができるであろう。

引用7「僕よりは頭のいい先生にきつくいわれているから」

金銭管理は、生活保護費を自身で工夫しながらおこなっているが、訪問看護にて通帳の確認をされている。その理由は、興味のある電車の模型やおもちゃを購入することで、お金が全くなってしまう、父親に金銭面での支援をお願いしたことがあったからである。加えて、電

車の乗車駅数を制限されているが、使いすぎの状態になると電車代に使っていることも考えられるからである。現在は、乗車駅数制限を守っており、自己の判断でお金を使うことは概ね出来ている。用途は主に食費に使っており、食料品を購入したり、外食を楽しんだりしている。

引用8「お金があまる」

「（通帳確認は）1ヶ月に1回でいい」

「（現在、1回/週の通帳確認は）しつこいし、くどいと思う」

ソーシャルワーカーとの関係においては、A氏はGH入居にあたりワーカーの勧めを喜び、入居場所を確認せずに入居に至っている。GHへ入居することへの不安はなかったとも述べていることから、退院後の生活に対してイメージはあまり持たなかったといえよう。

引用9「『（空室がでたからどうですかと勧められ）嬉しかった』

「（GHに見学には）行かなかった」

##### ①-2 家族との関係

父親は、GHの面会に1カ月に1度の頻度で来られており、その際にセンター職員にA氏の行動の制限やその理由と制限を守らない時の結果について表に示した用紙を準備し、センター職員とA氏に説明し、手渡している。用紙はA4用紙2枚に渡って書き続られていた。行欄は行動、理由、結果の3行に分けられていた。その中の1例を挙げると、行動欄には「毎日、部屋の掃除をする」、理由欄には「部屋の掃除をしないとGHを追いだされるから」、結果欄には「ホームレスになる」とA氏が分かり易いように書き記されていた。その他にも生活について具体的な行動を示し、守らないとホームレスになるという結果ですべて終わっており、父親はA氏が住居を失うことや支援者がそばにいなくなることにに対し危惧していることが窺えた。一方、A氏自身は、父親からは行動の制限をされていると述べていた。

引用10「（父親には）邪魔ばかりされている」  
生活上の行動の制限に不満気な発言をされる

が、そのことを守ろうとする行動をおこなっており、表情や伝え方は言葉とは若干異なり、父親に邪魔されていることを嫌がっている様子ではなかった。むしろ父親に言われてるからしょうがなく行っていることが多いが、それも仕方のないことだと認めているようでもあった。日常生活においては、A氏は父親から強く言われている掃除には自身なりに気をつけて行っていることが窺えた。その行い方には不十分かもしれないが、A氏自身は父から『ゴミ屋敷と言われている』の忠告を受け止め、掃除を実行していた。

引用 11「毎日行っている」というが、その掃除の内容が、

「電車のレールを1日1回走らせてる」「物の場所を変えてる」

「衛生面からいうと、毎日、ゴミ捨ててる」

A氏は趣味の為に金銭を使いすぎて困ったことがあった。その時に、父親に電話をしたところ小言を言われたことに対し、不満気な発言であった。しかし、父親からの支援によって解決してもらったが、その後は、父親に金銭的な支援を受け生活上の困難を解決するようなことには至っていない。

引用 12「一方的にガミガミ言われて、3分か5分くらい」

#### ①-3 その他の対人関係との関係

人との関係性をもつことを嫌う発言があるが、人を求めて、一方的にA氏の興味のあることを喋りたいと述べている。このような対人関係の取り方の例として、本人の望む電車の車掌になりたいという希望をかなえるために、車掌関係のことを知っている知人に問い合わせるみるが、かけあってももらえないような返答をもらったと述べていた。対人面で、自らが興味あることに対し、相手がどのように思っているのかなどを察することが少なく、問い合わせているのだといえる。基本的に人との関係を好まないが、車掌になりたいために、人へ尋ねたり、

告げられたことに対しては、聞き入れているといえよう。

引用 13「やっぱり人間関係は嫌い」

「普段無口だけど、喋りたい時はどうしても喋りたい」

#### ② 自身の価値・習慣から自己決定している

当事者自身の価値観に基づいた自己選択・自己決定を行っている。その価値観の現れ方は日常生活の仕方や、金銭管理の仕方などあらゆる場面で窺われる。日中の過ごし方においては、週4日はデイケア（以下 DC）に参加し、1日は訪問看護を利用している。DCを休むことはない。DCを休むときは電話をすることが約束されているが、その電話をかけることが苦手だから、休むことはしないという自己決定をしている。これは、「やっぱり人間関係が嫌い」ということから、電話をかけることも苦手だと話していた。A氏は、朝の起床が遅くなりがちで、10時くらいに起床することも多々あるが、それでも遅刻を選び、11時頃には出席している。DCはGHから徒歩10分ほどの距離にあり、毎日休まずDCに出席するという習慣がついているといえよう。DCでの過ごし方は、明確な目的を持っているわけではないが、欠席することはない。出席することに価値をおいており、習慣化されているといえよう。一方、DCの回数を減らしてほしいと希望しているが、減らした1日を何かにあてることは考えておらず、ただゆっくりしたいという思いからのようだった。

引用 14「苦手だから、電話するの緊張するから」

「何もすることがない」

「(4日/週)3日にしてほしい」

夜中の2時ごろに就寝しお昼頃に起床するリズムが過ごし易いと述べていたが、服薬によって夜中の12時には就寝している。服薬すること、また服薬時間が習慣化してきているといえよう。

引用 15「12時ごろ寝てる。やっぱり2時こ

ろ寝るのがいい」

就労については、電車の車掌になりたいと希望している。大学生時に発病し、その後入退院を繰り返しており、現在まで約 20 年間、就労経験はない。また、作業所に通った経験もない。電車の話しになると止まらなくなるほど、一方的に話し出し、かなり詳しいことを語られる。しかし、その内容は体力的な問題や他者からの情報、現在までの就労に向けての行動から悲観的に判断していた。現実的には難しいということを察しているのではないだろうか。

引用 16 「夜勤がしんどい」

「体力的にもやっぱり 5 日が限度だし」

電車関係に務めている人に聞いてみたところ、

「『A さんみたいな人のことまで考えてませんでしかたなら』って言われて」

「そう（電車の車掌になりたい）思ってた 20 年近くたってしまってるし」

さらに、職に就くにあたってスタッフから支援してほしいことを尋ねると、支援を拒否する発言が見られた。支援を考えてもらえることはありがたいが、今の自分の状況では、難しいということから、迷惑という表現をされているのではないだろうか。

引用 17 「ありがた迷惑です」

金銭管理においては、以前は使いすぎで父の支援が必要なこともあったが、現在は自分で決めて使えるという自信が見受けられる。この自身に伴った判断として、看護師からの支援の回数を減らしてほしいという希望が聞かれた。

引用 18 「ケチなんです」

「通帳が命の次に大事」

「（お金の使い道について）自分で決めます、そうしないと余るんです」

「（支援について）しつこくて、くどいと思う。1 回/月でいい」

③ 疾患との関係から自己決定している

発病の原因は、父親の行為によるものと述べ、また自身の症状について事実をもとに自分なりの解釈を行っていた。ここでの解釈においても、認知の不適切さが窺えた。A 氏は物事を理解するために、原因を考えて、自己で判断し、行為を行っていた。例えば女性化乳房が原因で、ものすごい体から牛乳の匂いがするから、その対処方法として、入浴行為を毎日行っているなどが挙げられる。

引用 19 「また寝てる、また寝てるって（父親が）こっちに向きを変えてねえ、それが原因で、入院になった」

「電気がね、流れてるので、人同士で磁石じゃないけど、電氣的に繋がって、それが原因で幻聴が聞こえてくるんじゃないかなって」

病識においては、疾患について理解はしていないが、病感はあることが窺えた。また、病感と日常生活の行為とを結びつけて考えるという統合失調症の思路障害も窺えた。一方、主治医より指示されている『人ごみを避ける』理由と幻聴との関係について理解していると推察できる発言も見られた。

引用 20 「幻聴もほめてくれるんだっらいけどね、悪口ばかり言われてるんだったら嫌だから、先生は人ごみは避けてくださいと」

引用 21 「頭じゃなくて体がわりと悪いんです」

「ときどき、心臓が痛くなるので水に氷をいれて、冷たい水を飲んでる」というように、精神疾患だという認識はないようである。しかし、「20 歳の時に、…女性化乳房と違うかなあ」

「それ以来、わりときれい好きで、お風呂も毎日行っている」

A 氏と人との関係について、下記に示した。尚、中心部分に A 氏自身、○は現在関わっている人、□は入院時に関わっていた人を示し

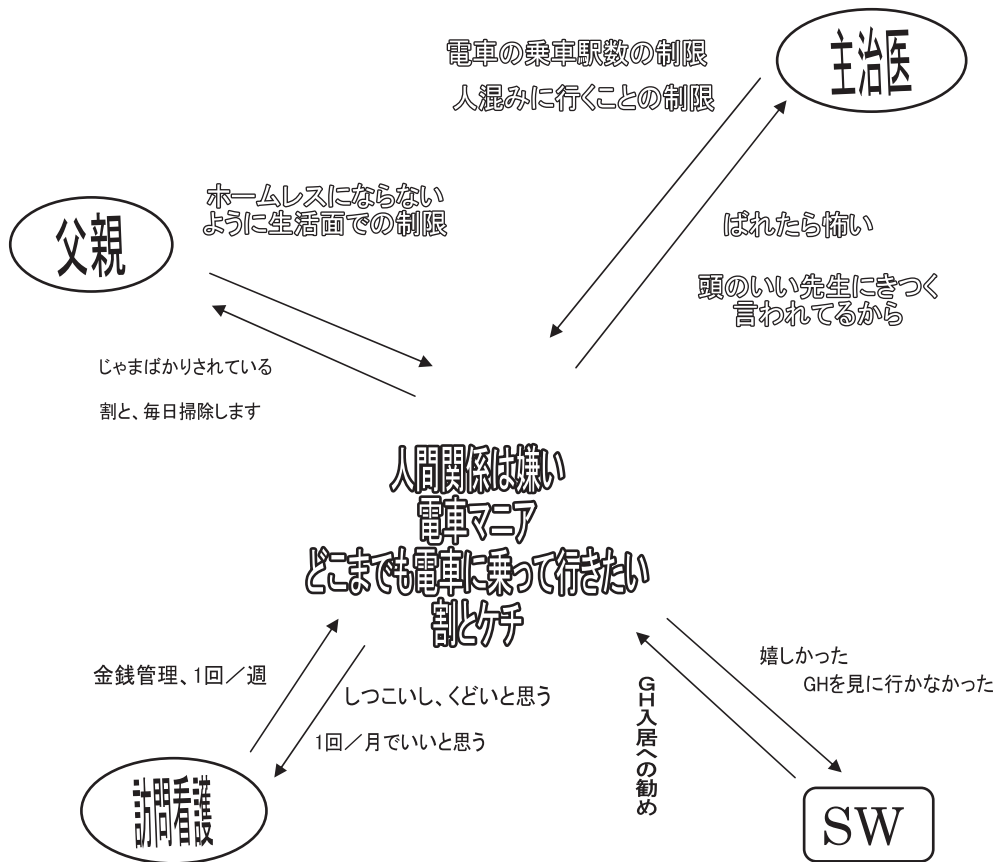


図1 A氏と人との関係

た。(図1)

## 2-2 B氏について

### ① 人との関係性から自己決定している

#### ①-1 支援者との関係

対人関係や割腹行為など集団生活での問題や、自傷行為について、主治医より指示や注意を受けている。その指示や注意に対し、主治医との関係を大切にし、修復しようと努力していることがわかる。一方、主治医に対して病気の説明を自らが聞けていない。B氏は、男性に対して「怖い、難しい」と答えていたが、主治医に対しては、男性であるにもかかわらず、異性として好意をもっている。主治医との関係を保ちながら自己決定を行っているといえよう。

引用 22「私がちゃんとやっていたら、先生

もちゃんとやってくれる」

「お願いしたい時は・・・1回怒ってもちゃんとこうやって誤ってお願いして、わかってもおて」

引用 23「怖くないねん、好きな先生やから余計に（聞かれへん）」

入院時、看護師に対しては、自分の要求が通らないと被害的に解釈し、看護師を攻撃するような言動がみられた。集団生活での順番待ちが我慢できずに、それを被害的に解釈し、看護師を責め喧嘩するという行為になってしまったと推測できる。しかし、現在は訪問看護の看護師との関わりにおいては、服薬の確認を主に体調管理面においてのやりとりは良好であり、『これ（薬）飲んでないねって』といわれることに

被害的な解釈はなく、むしろ自分の生活にとっての必要性を理解し、訪問看護の利用を継続できている。

引用 24 「何回も喧嘩になる」

「看護師（入院時）が悪いから…腹立つから」

引用 25 「（訪問看護）助かる」

#### ①-2 家族との関係

発病時には夫と娘がいたが、その後離婚し、娘を夫にとられたと思っていた。入院し、収入がないから娘を引き取ることができなかったが、夫は収入があるだけで、娘をひきとったと理由つけていた。発病当時は小学生だった娘も、あれから約 10 年経過しており、大人になっただろうという B 氏の発言もみられる。以前に電話をしたら、電話を切られたり、電話番号を変えられたりしたことから、娘の気持ちを察していると語っていた。しかし、いつかまた会えるときが来るかもしれないという思いは強く、会えた時に、娘が良いと思ってくれる母でありたいと強く願っていた。この気持が仕事に就きたいという原動力になっているといえよう。

引用 26 「子どもの誕生日に時計買って…あとで後悔した」

「働いているときにあえたら、一生懸命働いているお母さんがいいと思うから」

#### ①-3 その他の対人関係との関係

被害妄想があり、対人面で被害的な認知を行う特徴がある。以前は作業所や DC に通っていたが、いずれも対人関係がしんどくなって辞めている。B 氏は自らの対人関係の問題に対する対処の仕方を分析している。例えば、GH の世話人との関係において、世話人が同居者に対し、節度や集団生活のルールを踏まえた声掛けを心がけ、実施していることに対して、同居者をかばうような発言をしていた。また、世話人の親切な誘いに対しても、B 氏自身は一人を好む発言をされていた。人のアドバイスや行

為を被害的に受け取り、B 氏自身は人と共に楽しみ事を楽しめないという特徴を持っている。その思考は自らの対人関係の取り方に影響するだけでなく、同 GH の入居者（以下その子）にも及んでいる。その子が GH 内の居室で立っていることに対し、同居者に対して、気持ちを察するような発言であり、また自身が苦手とする世話人に対して、攻撃ともいえる発言をしている。

引用 27 「人間関係嫌やねん」

「人間関係が下手やねん、嫌になったらすぐに逃げちゃう」

「もう自分で（人との関係）切るわって決めてしまうねん」と、

「ご飯たべる前にそんなこと言ったらご飯美味しくないもん」

「その子はその子の世界に入ってるから、別に何もしてないねんから、ほっとけばいいやん」

カラオケに誘ってもらっても

「私にしたら大きなお世話、私は一人で行きたい」

一方、ハローワークの職員には、求職のためのパソコン検索の操作を教えてもらい、時にはアドバイスをもらっており、そのアドバイスを聞き入れている。アドバイスを活用しながら、自身の思う仕事を探そうとしている。情報の収集の仕方に困っている時の励ましやサポート的な対応を心強く感じている様子であった。

引用 28 「『絶対忙しい、しんどいから、これは勧められませんって』ってのはきり言われた」

「むこうも見てはるから。こっこの様子を、パッとみて、この仕事やめときって、結構みてはるから」

「（パソコンの検索）5 千なんぼもあって、もう嫌になって」

「『なんべんでも応援します。何回落ちても、また探したらいい、どっかで必ずひっかかる』って言って」

② 自身の価値・習慣から自己決定している求職活動中で、ハローワークに行ったり、一人で月1回ほどカラオケに出かける。その他はGH内で日中を過ごしている。B氏は、朝起きることを心がけ、その後2度寝することもあるが、毎日洗濯を行い、出かけることがなくても、日中の生活リズムが崩れることがないよう心がけ、実行している（習慣化）。孤独にならないような工夫を行っている。

引用 29「テレビはかけっぱなし、淋しいから」

発病までに家庭をもち、パートとして梱包などの就労を経験していた。現在も、自らハロー

ワークに通い、パソコンで検索し、時には、ハローワーク職員にアドバイスをもらっているが、自分で仕事をみつけ、自ら求人先へ電話をし、決定している。年齢的な制限があり、なかなか見つけにくい状況ではあるが、求職活動を行っている。このインタビュー時には、郵便局のアルバイトがGHの近くにあり、その面接日程が決まっていた。これも自分で電話をかけ、面接までこぎつけている。多くのアルバイトを経験し、今後も年齢的なことはあるが、見つかると考えていた。B氏の職を見つけないという思いは、いつか会えるであろう娘に対する母親の気持からきていると推察できる。娘をも

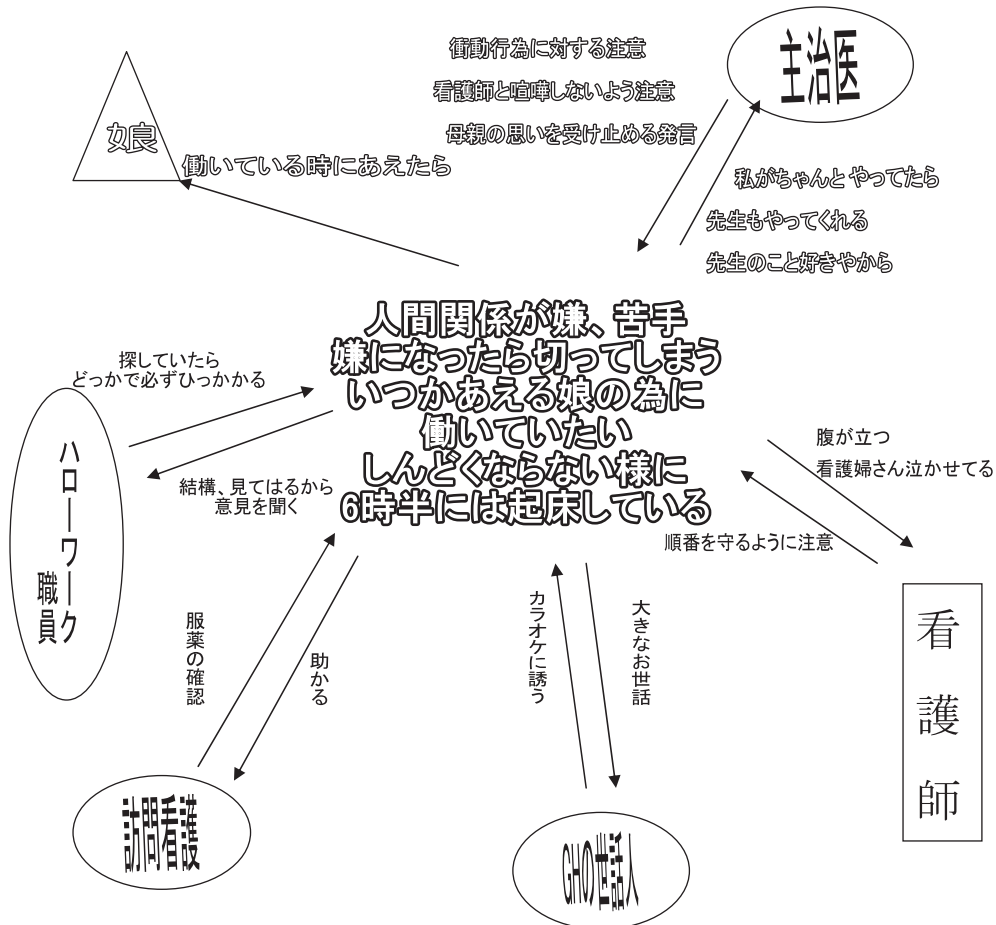


図2 B氏と人との関係

つ母親であるというところが、B 氏の原動力になっていると推察できよう。

引用 30 「なんぼでもアルバイトはあるから、でも年とってきたから、体力っていうのをむこうも考えるから」

今までの仕事について

「勝手にやって、勝手に辞めて、自分でハローワークに行って、見つかる、勝手に終るねん」

「働いているときに会えたらって思う。私が反対に子どもやったら、ゴロゴロしてるお母さんより、一生懸命働いているお母さんが見たい」

### ③ 疾患との関係から自己決定している

発病の原因はまわりの状況からだ認識していた。病名については主治医に聞けずにいた。B 氏の病識は定かではないが、入退院を繰り返していることや、現在の生活などから、悲観的に感じ、自傷行為が何回も起こったのだと推察できる。父親のお墓の前では、割腹行為を行い、通りかかった人に助けてもらったという経緯もある。被害妄想により、GH 内の居室の玄関に包丁をぶらさげるなどの行動化が見られた。

引用 31 「私の場合は自分で病気になったのじゃなくて、周りのあれが…日赤から始まってから、日赤の人たちが追いかけてきて」

「一人になってこう落ちてきて、何回も死にかけて、…もうお父さんのところに行くって、お墓の前で」

A 氏と人との関係について、下記に示した。尚、中心部分に A 氏自身、○は現在関わっている人、□は入院時に関わっていた人、△は約 10 年間会っていない人を示した。(図 2)

## V 考 察

### 1 自己決定の捉え方について

自己の希望と結びついており、自己決定に関連してくる要因は、自らの希望に沿うか否かが重要であるといえよう。A 氏は「できるだけ自分で」と、B 氏は「その人の責任になってしまおうから、全部自分の責任で」と自己決定の説明を述べていた。

上述の Wehmeyer の指摘のように、A 氏 B 氏共に自己決定を『全て自分ですること』と誤解していたと考えられよう。人との関係性を築くことが苦手なため、人の力を借りずに自分で、自分の責任で決めていこうとしているといえよう。また、人の力を借りれば「その人の顔があるから」と、人に迷惑をかけたくない、迷惑をかけると叱られる、迷惑をかけることは良くないなどの考えも同時に持ち合わせているのだと推察できよう。

### 2 自己決定に関連している要因についての考察

上述の 3 つの自己決定に関連する要因を整理すると、「機能面による判断」「主観による自己評価」「価値に沿って区別された他者との関係性」の 3 つの事柄が示唆された。(図 3)

#### (1) 「機能面による判断」

ここでの機能面とは精神機能面のことであ

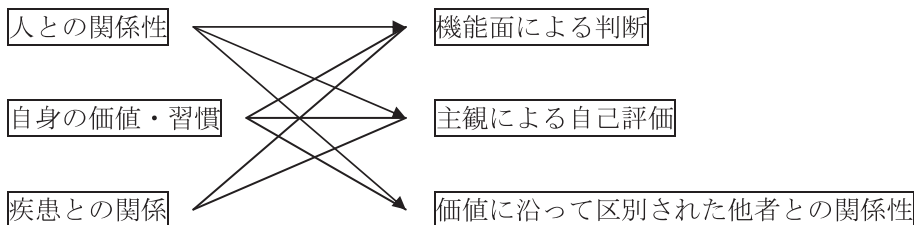


図 3 自己決定要因



り、幻聴や妄想、問題解決能力、意欲などを指す。自身のことを悪く言うという幻聴をもつA氏は、「人と人とが電氣的に繋がっている」という妄想的思考から遠ざかるためには、人の集まる所に向かい、自身の悪口を言われることを避けたいという思いがあると推察できる。しかしながら、休日は街に出かけたり、人との関係を必要とする仕事を希望していた。苦手と感じている対人関係を克服したい気持ちが内在し、行動化へ導いているのだと考えられる。被害妄想をもつB氏は、常に人との関係で「裏切られた」と発言しているように、人に対して良い思いはしていない。それよりは「最後は裏切るでしょ」と基本的な信頼関係を築きにくく、また自身も結果的には、人との関係から逃げる、関係を切るという対処方法をとっていた。今回のインタビューの依頼について、快く引き受け、またインタビュー時の様子は、とても協力的であった。被害妄想からくる対人関係の難しさは否めない事実であるが、人とのつながりを求めていると考えられよう。

## (2) 「主観による自己評価」

「人との関係性」の取り方、「自身の価値・習慣」による日常生活の行い方、「疾患との関係」の取り方において自己評価を主観により行っていると考えられる。第3者の意見を取り入れた上での自己評価ではなく、極めて主観的であるという意味である。

A氏は、自身の状態について「頭じゃなくて体がわりと悪いんです」と、病気によって体力が落ちてきていると捉えている。また、主治医の入院の判断について、「明らかに誤解している」、父親からの生活面での忠告については、「邪魔ばかりされている」と、自身の評価は低くない。しかしながら、主治医に対しては「僕よりは頭がいい先生の言うことだから」や父親に対しては金銭面で困った時に支援をしてもらい、またその他の生活面での忠告を聞き入れた生活を行っていた。これらから、自身の判断が不十分で不確かであることを感じているため

に、周囲の支援者の支援を聞き入れる判断になっているのではないだろうか。さらに、就労についての支援や金銭管理に対する支援については、「ありがた迷惑」だと答えた理由は、就労はまだ難しいということや金銭の管理は以前よりは出来ているという自身に対する評価を行っているといえよう。

B氏は「人間関係、嫌やねん」「もう切りましょうってなっちゃうねん」というように、自身の対人関係の取り方を理解している。しかし、このGHの世話人との関係では、切ってしまうという行動ではなく、「言われんように早め早めにやってる」というように、世話人から注意を受けないような対処行動を行っている。世話人のお世話をしようとする思いからくる言動に対しては「しゃ～ないし」「あの人はあの人やから」というように、あきらめの思いと同時にあるがままの状態を受け入れようとしている。これは以前と比べると、「個人的問題の心理的調整」が行われているものであり、これは中村（1995）の述べるエンパワーしてきているということではないだろうか。一方、「病気になるまで、もう下にくだっていくばかりで、自分で上がろうとしても、また下っていくねん」と、発病前の状態と現在を比べ悲観的な発言をし、自己評価は高くないといえよう。「間違ってもいいと思うねん」という言葉から、失敗することはあるが自分の人生を自分で決め、実行してきたことへの自信や強さがあるといえよう。

## (3) 「価値に沿って区別された他者との関係性」

自身にとっての必要性や好き嫌いなどが人との関係性を作っている。両名とも対人関係は苦手と述べていたが、全ての人との関係が同程度に苦手ということではない。その行い方は、主治医に対しては、約束事を守ろうとしていた。A氏は「再入院に対する怖さから」であると述べ、B氏は「自分がお願いした時にちゃんとしてくれるから」と述べていた。主治医との約束を守ろうとする決定にはパターンリズムの関

係性からくるものだとは言いきれないのではないだろうか。両名とも精神症状が悪化している時を振り返ることは難しく、また自身の疾患について明確な病識はもっていない。しかしながら自身の健康に最も影響があると思われる主治医の判断や意見は、重要であると感じ、自身の決定に大きく影響しているのではないだろうか。主観による自己評価を行いながら、知らず知らずの内に自身の生活にとって重要なこととさほど重要ではないことを区別する力が備わっているといえよう。その区別は生きること、生活のことを考慮した自身にとっての価値なのではないだろうか。換言すると、現在の自身の生活の中で重要だと思うことに基づいて、周囲との関係性を保とうとする力が働き、自己決定しているとも言えよう。

## VI まとめ

インタビューから生成されたデータから自己決定に関連するものとして「人との関係性」「自身の価値・習慣」「疾患との関係」の3つが抽出された。自己決定に関連する要因を探索的に整理すると、「機能面による判断」「主観による自己評価」「価値に沿って区別された他者との関係」が自己決定に関連する要因であった。

A 氏 B 氏ともに日々の生活の中からの体験や、支援者などとの関係の中で感じる自己評価は高くはない。むしろ自己評価は低い傾向にはあるが、自己決定を行って生活していきたいと思う当事者の力は強く感じられた。自己決定は、自己が自己として生きて行く、換言すれば自分らしく生活するために重要な要素なのではないだろうか。自分で決めるという生活経験を積み重ねていくことで、当事者自身が自身に合った自己決定の仕方を行っていきけるのではないだろうか。すなわち、自己決定を繰り返すことは、その人らしく生活することであると同時に、その人らしくリカバリ<sup>4)</sup>していくことだといえよう。

## VII 研究の限界と課題

対象者は2名のみで最終の退院から約3年である。また、地域生活維持のために多くの支援を医療福祉機関サービスから受けている。本研究の限界は、就労している者など地域生活の行い方は多様であることから、どの対象者もこのような結果になるとは言えない。よって、自己決定に関連する要因は、他にも考えられ、今後当事者の声を聴くことを実践しながら、本研究を進めていく必要がある。

また、当事者は自己決定を繰り返しながら生活しているにも関わらず、自己の変化について気付くことが少ない。エンパワーしている変化に気付くような支援の実践が求められるのではないだろうか。そのためには、支援者と当事者が共に、理解しやすいツールも求められるのではないだろうか。

## 謝辞

本研究を進めていくにあたり、終始暖かく見守っていただきご指導いただきました津田耕一先生に心から感謝申し上げます。また、研究にご協力いただきました研究対象者の皆様、ならびに施設とスタッフの皆様にお礼申し上げます。なお、本研究は関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科に提出した修士論文を一部修正・加筆したものである。

## 注

- 1) 興那嶺らによる、簡易版自己決定尺度の利用については、興那嶺先生へ直接お電話させていただきました、了承を得た後、使用させていただきました。
- 2) Gary Kielhofner による人間作業モデルの概念と同意語として捉える。価値とは人間が行うことに対して重要性や意味を見出していることであり、「生活のやり方」に対する約束の中に本来備わっており、その複雑な交流の中での生活のやり方が分化を構成している。価値は、ある物事を行うことから得る自分に価値があるという思いに影響を及ぼす。また、能力障害と価値の接点は、複雑で多面的である。価値は人々が障害をどのように経験するかということ形づく

る。

- 3) 2) と同様に、人間作業モデルの概念と同意語として捉える。習慣とは、以前に取り入れたり、獲得したりした行為形態に携わるため、多少なりとも自己発動的な性質や傾向。慣れ親しんだ比較的努力を要しない特性を生活にもたらす通常の行為のパターンを持つ。習慣の特質は、特定の行為に対してではなく、反応の仕方や様式に対する獲得された性質である。
- 4) 野中 (2011) は、リカバリー概念について、精神障害を持ちながら心理学博士になった Deegan の言葉を紹介している。本研究で述べているリカバリーはこの概念に極めて近いため、以下にその内容を沿える。

「リカバリーは過程であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方である。完全な直線の過程ではない。ときには道は不安定となり、つまづき、やめてしまうが、気を取り直してもう一度始める。必要としているのは、障害への挑戦を体験することであり、障害の制限の中、あるいはそれを超えて、健全さと意思という新しい貴重な感覚を再構築することである。求めるのは、地域の中で、暮らし、働き、愛し、そこで自分が貴重な貢献をすることである」と表現している。

## 引用文献

- F. P. Biestek 著 尾崎新、福田俊子、原田和幸訳「ケースワークの原則 【新訳版】援助関係を形成する技法」『誠信書房』、1996年、161頁
- 狭間香代子「自己決定とストレングス視点」『社会福祉学』第40-2号、2000年、45-46頁
- 稲垣佳代、住友雄資「精神障害者への「失敗を保障する」援助に関する研究」『高知女子大学紀要 社会福祉学部編』、第59巻、2009年、3-46頁
- 石川時子「能力としての自律-社会福祉における自律概念とその尊重の再検討」『社会福祉学』、第50巻第2号、2009年、14頁
- 笠原千恵「他の人ではなく自分で決める-当事者主体の自己決定支援モデル開発に向けたグループホームで暮らす知的障害のある人の参加型調査の分析-」『ソーシャルワーク研究』、第31巻第4号、2006年、295-302頁
- 萱間真美『質的研究実践ノート 研究プロセスを進める clue とポイント』『医学書院』、2008年
- Gary Kielhofner 編 山田孝監訳「人間作業モデル-理論と応用-[改訂第3版]」『協同医書出版

社』、2009年、55-59頁、70-88頁

- 久保美紀「ソーシャルワークにおける Empowerment 概念の検討-Power との関連を中心に-」『ソーシャルワーク研究』、1995年、第21巻第2号、93-99頁
- 三橋良子「居住支援 障害者自立支援法、社団法人日本精神保健福祉士協会編」『東京ヘルス出版』、2005年
- 中村佐織「ソーシャルワークにおけるエンパワメント-アセスメントとのかかわりから-」『ソーシャルワーク研究』、第21巻第2号、1995年、120-125頁
- 野中猛「リカバリー論からみた統合失調症の予後」『精神医学』、53(2)、2011年、69-175頁
- 大熊恵子「統合失調症患者の退院後の生活場所に関する意思決定に影響する要因」『精神リハ誌』、2008年、第12巻第1号、73-80頁
- 太田義弘「ソーシャルワーク実践と支援科学-理論・方法・支援ツール・生活支援過程」『相川書房』、2009年、91頁
- 斎藤まさ子「服薬管理における「自己決定の尊重」と看護」『新潟青陵大学紀要』、第7号、2007年、17-28頁
- 副田あけみ「社会福祉専門職ライブラリー『社会福祉編』社会福祉援助技術論ジェネラリスト・アプローチの視点から」『誠信書房』、2007年、38-39頁
- Thelma Sumsion 編著 吉川ひろみら共訳「「クライアント中心」作業療法の実践 多様な集団への展開」『協同医書出版社』、2001年、50頁
- 谷口明広「障害のある人たちの自己決定能力を高める要素-自己決定能力は育てられるもの-」『社会福祉学』、第49巻第1号、2008年、157-158頁
- 津田均「分裂病の「決定不能」に関する一考察」『精神神経学雑誌』、第100巻第5号、1998年、291-311頁
- Thelma Sumsion 編著 吉川ひろみら共訳「「クライアント中心」作業療法の実践 多様な集団への展開」『協同医書出版社』、2001年、31頁
- 山崎修道 荒川裕美ら「慢性期の統合失調症患者における早急な結論判断バイアス」『精神医学』、47(4)、2005年、359-364頁
- 興那嶺司、岡田進一、白澤政和「生活施設における知的障害の自己決定の構造-担当支援職員による質問紙に対する回答を基に-」『社会福祉学』、第45巻第2号、2009年、27-39頁

Z. T. Butrym 著 川田誉音訳「ソーシャルワーク  
とは何か」『川島書店』、1993 年、59-65 頁